

# 学校だより

在マレーシア日本国大使館附属・  
クアラルンプール日本人会日本人学校  
平成28年度 第5号(8月29日発行)  
URL : <http://www.jskl.edu.my>

## 感 動

校 長 宮谷 真一郎

新たに42名(幼10名・小28名・中4名)の転入生を迎え、幼小中合わせて820名で2学期が始まりました。

夏休み中、事件・事故に巻き込まれることなく、8月22日、みな元気に登校しました。子どもたち自身の努力もさることながら、保護者の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、今年の夏休みはいかがでしたか。ご家族やご友人など、近しい方々との充実した出会いにきっと恵まれたことと思います。私は例年とは違う「四年に一度」の熱い夏を過ごしました。それは高校球児の直向きに白球を負う姿に加え、連日連夜、リオでの日本人選手の活躍に一喜一憂したからです。「すごいね、日本人選手。私まで嬉しいよ。」という思いがけないマレーシアの友人の言葉に、私までがオリンピック参加者の気分になり、いつも以上に日本人であることを誇りに感じた夏でした。

このような感動を多くいただいた今夏でしたが、殊に印象的な姿が女子レスリングの吉田沙保里選手のものでした。

ご自身は四連覇がかかった大会でした。それだけでも十分なのに、オリンピック選手団の主将という重責も担っていたわけですから、想像を絶するプレッシャーであったと思います。

だからというわけではないでしょう。オリンピック3連覇、世界選手権13連覇、個人戦200連勝し、「霊長類最強の女子」と言われた、吉田沙保里選手が負けました。銀メダルでした。15年間も世界の頂点に立ち続け、すべての女子レスリング選手のあこがれであり続けた彼女にしてみれば、金メダル以外は視野に入っていなかったのでしょうか。泣き崩れる映像に、改めて今大会にかけた決意を感じました。

それにしても、「チャンピオンになること」と「チャンピオンであり続けること」では、雲泥の差であると言われます。まして活躍する選手が若年齢化するスポーツ界において、15年間の長きにわたりチャンピオンであり続けたことは、むしろ脅威に値します。このような中で、チャンピオンであり続けるために、周囲の期待に応え続けるために、自己に対して厳しい姿勢を貫き続けた吉田選手です。そんな彼女に、一体何が「申し訳ありません」と言わせただけなのでしょう。

「世界という舞台で活躍すること」。これは本校を巣立っていく子どもたち皆さんに寄せる期待であり、願いです。そんな子どもたちにはもちろん、「日の当たらない部分での努力は決して惜しまず、勝っては謙虚に、負けても誠実に人生を歩む」吉田沙保里選手の生き方は、私にとってもかけがえのない「一期一会」となりました。

今秋11月21日に、本校は創立50周年を迎えます。この記念すべき日を迎えるにあたり、今学期も「日本人らしく、流行に乗りつつも不易に根ざした、一期一会を大切にした教育」を教職員一同で改めて目指していきたいと思っております。

9月の予定	
9 / 3 (土)	土曜参観日 中2校外学習説明会 (15:45 第1音楽室)
5日(月)	振替休業日
6日(火)	参観週間 ~9日まで 小 朝会
7日(水)	中 進路説明会 (14:30)
12日(月)	ハリラヤハジ(祝日)
13日(火)	月曜日の授業 小 児童朝会
15日(木)	小 委員会 中 ラ会役員選挙 中間考査発表 幼 お月見集会
16日(金)	マレーシアデー(祝日)
19日(月)	学校運営理事会・PTA代表委員会
20日(火)	中2校外学習(21日まで)
21日(水)	小6修学旅行(23日まで)
22日(木)	中 早稲田渋谷シンガポール校説明会(15:40)
23日(金)	幼 誕生会 中 専門委員会
26日(月)	中 中間考査
27日(火)	小 体育朝会 中 3年三者懇談(30日まで)
29日(木)	幼 幼稚部集会

### お知らせ

2学期より、スクールカウンセラーの小松先生は、月曜日、火曜日、木曜日が勤務日となります。申し込みは担任か教頭まで、ご連絡ください。

